

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
1	【基本計画】 第2編第1章第5節	<p>1) 石巻市ではJRの鉄道路線が基幹的公共交通機関をなしている現状があり、基本構想20ページにも「鉄道は(中略)必要不可欠な交通手段」と明記されていることは評価できる。しかし、基本計画の当該箇所(24～26頁)において鉄道への言及がほぼ皆無である点が問題と考えられる。特に、26頁の施策2「市民生活を支える公共交通等を安定的に維持する」では、バスや航路をはじめカーシェアリングにまで言及しながら鉄道への言及が一切ない。基本構想の第4章「まちづくりの主要課題」に「公共交通ネットワークの充実」があることを踏まえると、この点は大きな問題と言わざるを得ない。</p> <p>石巻地域の鉄道は市内単体では収益性が見込めず、新幹線や首都圏の鉄道の収益による事業者の内部補助により運行が維持されていると推察されるが、コロナ禍を経て今後5～10年を待たずさらに厳しくなることが予想される。今の段階で、鉄道も含めた公共交通全体のネットワークの維持に向けて市としての施策展開を行うことは、公共交通の持続性にとって非常に重要と考えられる。さらに、コンパクトシティなどを実現するためにも、鉄道は不可欠である。</p> <p>JRとの緊密な連携による利用促進や、バスと鉄道のシームレスな接続と情報提供、駅における駐輪場の整備、鉄道駅のバリアフリー化の推進、駅周辺への施設立地や周辺土地利用施策を通じた公共交通志向型開発(TOD)などが考えられるが、こうした鉄道利用を促進することで維持し活性化するための施策を基本計画に組み込むことが必要ではないか。</p> <p>2) KPIの「公共交通ネットワーク充足率」はその定義が不明であり、一般的な指標とはいえない。透明性のある事後評価が可能かどうか不明である。例として、「平日一日12便以上の公共交通サービスの運行がある鉄道駅からの半径500mまたはバス停留所からの半径300m以内に居住する住民の比率」など、客観性の高い指標が適切ではないか。</p>	<p>鉄道交通については、JRにより運行されているため、市の施策はJRに対して要望などを行うことに止まっております。このことから、総合計画基本計画での具体的な記載はありませんが、現在策定中の総合交通戦略において、JRの活用、連携強化について位置づけてまいります。当該KPIである「公共交通ネットワーク充足率」は、「公共交通での日常の外出確保(通院・買物・高校通学等)を測る指標」です。御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。</p>
2	【基本計画】 第2編第2章第3節5	<p>1) 基本計画の道路整備の項では、自動車交通と徒歩交通については言及があるが、自転車交通に関する言及が全くない。石巻市の特に市街地や河南・桃生地区は平坦なエリアが多く、自転車利用に非常に適した地形である。自転車は化石燃料などのエネルギーを消費せず、排ガスを出さないなど、SGDsの観点からも環境保護に大きく貢献する。これらを勘案すると、自転車利用環境を積極的に整備し、安全で快適な利用を促進することについても基本計画に組み込むべきではないか。</p> <p>2) 歩行環境の整備については、国土交通省が進める「ウォーカブル推進都市」を持ち出すまでもなく、都市における重要性が認識されているところである。単なる安全確保や「歩行者が多く行きかう道路」のみの「バリアフリー化」のような最低限・消極的な施策のみならず、より積極的に「歩きたくなる」道路整備を進めるべきではないか。</p> <p>3) 自転車利用環境や歩行環境の整備は、駅や停留所周辺で集中的に行えば、公共交通の利用環境を整えることでもある。したがって、基本計画第1章第5節でしめされた公共交通の安定的維持への相乗効果が期待される。</p> <p>4) 交通の利便性向上、すなわち自動車等の普及を遠因とする日常の運動不足は第5章第6節で言及されている点であるが、自転車の利用や歩行の促進は、日常的な運動を促すことでもある。したがって、徒歩交通や自転車交通の安全性・快適性の向上は、当該箇所でも示されたスポーツ活動の推進や、基本計画第3章第4節で示された、「心と体の健康づくりの推進」との相乗効果も大いに期待される。</p>	<p>御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。</p>
3	【基本計画】 第4編第2章の149頁、151頁	<p>「地域交通情報アプリケーション(ローカル版MaaS)」との記述があるが、記述を詳しく読むとMaaS(Mobility as a Service)本来の定義とはかけ離れている言葉の使われ方がなされている。MaaSの基本的・本来的な定義は「自動車利用抑制を促すべく、運賃体系やダイヤや案内体系が統合された各種公共交通と、タクシーや自転車シェアリングなどあらゆる非自動車の交通機関を組み合わせてサービスとして提供し、デジタルプラットフォーム上で予約・決済まで一元化するもの」であって、単なる「交通情報アプリケーション」のことは決してない。これを踏まえると、現在の基本計画中におけるMaaSという単語の使用は誤用と言わざるを得ず、市民の誤解を招く恐れが大きい。現状の施策内容の場合、カッコ内のMaaSとの名称は削除されるべきであると考えられる。</p>	<p>本市で検討している地域交通情報アプリケーションは、既存の公共交通とコミュニティカーシェアリング等を繋ぎ、移動手段に係る課題解決を図る機能を有するものです。このことから「ローカル版MaaS」という記載をしています。</p>
4	【基本構想】 【基本計画】 その他	<p>提供されているPDF文書は文書内の相互参照(ハイパーリンク)が設定されておらず、「目次の項目をクリックすると当該箇所へジャンプする」といった基本的な機能が提供されていない。また、ヘッダやフッタに章や節の番号・タイトルが記されないなど、文書の当該箇所を迅速に探したり、文脈を理解することに困難を伴う。いずれも標準的なワードプロセッサ等の機能であるから、この点の改善を希望する。</p>	<p>相互参照等の機能につきましては、配慮が足りずに大変申し訳ございませんでした。今後は市民の皆様が活用しやすい資料の作成に努めてまいります。</p>

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
5	【基本構想】 【基本計画】 基本目標6に関して	○実は今後これが一番重要ではないのでしょうか？もっと具体的に示して頂き、例えば次世代を担う若者の意見をもっと尊重すべきです。また目標1に掲げるべきかと思えます。	若者を含め幅広い世代の意見を尊重し、各施策に取り組んでまいります。 また、基本目標の順番については、重要度の順番により番号を付したものではありません。
6	【基本構想】 【基本計画】 基本目標1-①、3-②③④⑤に関して	○自助、共助を促すことは良い事ですが、やりかたを市街地と離半島部で分けて考えて欲しい。住民の意識を高めるコーディネートや中間支援では、リタイヤした元気な高齢者がほとんどいない地域ではその労力やコストに対して成果がほとんどありません。よって離半島部では方針を180度転換し、やる気のあるものに報酬を払う、公助で行うなどして欲しい。(見守り、移動支援、買い物支援、サロン活動などなど)	基本目標につきましては、本市の全体的な方向性を示すものではありませんが、地区によって特色や課題が異なることから、実情に合わせた施策展開が必要であると考えております。 取組に関する御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。
7	【基本構想】 【基本計画】 基本目標2-①②、4-④に関して	○牡鹿半島のメイン道路、県道2号線では今まで、何十回とゴミ拾い等の清掃活動を行ってきました。しかし全く効果がないばかりか、むしろゴミは増大しており、とても国立公園と思えない恥ずかしい状況です。性善説に頼るのは、もはや限界かと思えます。また、風光明媚な地に観光に来た方にも著しく地域の意識の低さを見せつけSNS等で発信され石巻市のイメージを低下させます。 そこで条例などで、ゴミ捨て違反者には罰金100万円等を課して欲しい。(インパクトある数字が大事)更に違反者の特定につながる情報を提供した者には協力金として罰金の半分を進呈するなど、実効性のある中身を提案したいです。(意識高い方や監視者が増える方策)	御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。
8	【基本構想】 【基本計画】 基本目標1-②③、2-③、3-①等多岐の項目に関して	○女川原子力発電所の再稼働に関して真摯に向き合っていない。 原発の存在はメリットもデメリットもあります。産業や環境、安心安全なまちづくりや子育て、移住など全ての項目に影響を及ぼします。真摯に向き合わなければ石巻市の姿勢に疑問符が付きまします。 まずは、PAZ及び準PAZからの実効性のある避難計画を策定し実行して欲しい。 1: 県道2号線、万石橋の両端での冠水対策(新ルートの建設等場合によっては考慮) 2: 桃浦浜、荻浜、小積浜付近の県道の高台移設(浸水地域を通過する為) 3: 東部5浜(牧浜、小竹浜、狐崎浜、鹿立浜、福貴浦浜)や折浜に新しい避難道路を整備し県道に直結(現状はすれ違いも困難で1mの津波でも水没する様な非常に貧弱な道路、蛤浜では内水氾濫も起きておりとても避難など出来ない) 4: 原発ゲートから寄磯浜、前網浜方面への道路の2車線化 震災級の複合災害が起きた時には自ら避難するしかありませんので、道路の確保が生命線になります。	御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。
9	【基本構想】 19ページの(2)防災 「市内36箇所の施設や復興公営住宅を津波避難ビルとして指定し、市内4箇所に整備した津波避難タワーを含め」	まず、「津波避難ビル」、「津波避難タワー」とはなんですか？どういう状況下で、誰が利用でき、どういう安全が確保できるものなのか。特に、津波避難タワーが存在する市内4箇所の場所はどこですか？ 一般市民でこの場所を知っている方はほぼ皆無だと思えます。石巻市のHPIに掲載していますというのは簡単ですが、そこにたどりつけない方もたくさんいます。自分には関係ないと思う方も、その場所の情報があるだけで、その人の災害に対する備えになるのです。 大震災で学んだ教訓を、せっかく立派に形として活かしているわけですから、情報開示の方法や伝達方法など、もう少し「詰め」をしっかりと市にお願いしたいと思えます。	「津波避難ビル」、「津波避難タワー」については、沿岸部において、浸水域外への避難が困難な市民の安全を確保するため、津波からの一時避難場所として整備したものです。津波避難タワーの場所は大宮町、魚町一丁目、魚町三丁目、西浜町の市内4か所に整備しており、津波避難ビルは市内36か所を指定しています。今後も施設の場所等について、市民の皆様への周知に努めてまいります。
10	【基本構想】 29ページの(6)観光 「マンガのまち」として石ノ森章太郎の漫画の世界を体験できる「石ノ森萬画館」やキャラクターのモニュメントを探しながらまち歩きができる「マンガロード」	キャラクターのモニュメントですが、009のキャラクターと仮面ライダーのキャラクターが主ですが、今後、市内の小中高生にアンケートで好きな仮面ライダーの人気投票を行い、一体でもいいのでその人気投票1位のキャラクターをモニュメントにすればいいと思う。石巻市の未来を担うこどもたちの声を聞くことで、まずは市民に愛されるモノになるよう努めるべき。こどもの意見は素直で率直です。大人目線ではなく、こどもの好きなものを作っていきべき。 そして、あのモニュメントは石巻観光ボランティア協会さんが定期的にきれいに拭きとり掃除をしてくれています。作りっぱなしではなく、その後の維持管理、そしてそれを見る方目線で常に動いてくださっています。そういった活動を市民のみなさんに広く伝えていくことも市のそして私たちNPOセンターの役目だと思えます。	御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。
11	【基本構想】 47ページの(3)住宅地 一部で生活道路の幅員が狭隘な区間があることにより歩行者の安全な通行が脅かされる場所や	湊地区から渡波地区へ向かう道路はずっと変化がない。歩行者の安全な通行が脅かされ続けているし、着工が遅すぎる。早急な改善を期待します。また、市内の歩道と道路の段差が目立ち、自転車走行する人はその段差にタイヤをとられ横転することもあります。危険と思われる箇所の段差を調査し、走行の妨げにならないような、高齢者の歩行に影響がないような改善を期待します。 実際に歩いてみて、自転車で走行してみて、各方の目線で見ると、感じる不便を感じるのも市の重要な役割だと思えます。	御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
12	<p>【基本構想】 51ページ 基本目標の1の②</p> <p>【基本計画】 17ページ 移住したくなるライフスタイルの形成</p>	<p>私は二地域居住を実践するため、令和2年6月に会社を立ち上げ、居住兼事務所として鮎川の黒崎に空き家を購入し所有しました。二地域居住の実践については、2016年より環境省との取組みでみちのく潮風トレイルに関わり、この地域の素晴らしさと出会いながら、関係人口の重要性を学び、復興交付金の期間が終わるこの時期に二地域居住の可能性を探るため、自ら実践をはじめました。</p> <p>二地域居住の可能性は、都市圏の人を地域とつなぐ役割が関係人口の中でも大きいと考えており、その背景には、都市圏での働き方の大きなシフトチェンジがコロナ禍においておきていることが軸にあります。多くの二地域居住者は都市圏と地域圏を暮らしの背景とするため、どちらのマーケットにおいても理解は深いと考えます。総合計画内ではP19「関係人口」が、地域を支える新しい力として芽生えはじめていることから、これらを活かし、地域コミュニティを維持していくことが重要と触れられているが、基本目標以降ではいきなり移住・定住の促進になっているため、関係人口に対する取組が上位計画から下位計画に移る際に希薄になっていると思われます。</p> <p>ですので、基本目標の1の②の「少子高齢化社会に対応する移住・定住の促進」を「少子高齢化社会に対応する関係人口の拡大と移住・定住の促進」とし、基本計画案に関係人口の拡大として、二地域居住者への取組を取り入れてみてはいかがでしょうか？</p> <p>その際ですが、二地域居住者は今のシステムだとどちらかの市町村にしか住民登録ができないため、行政サービスも受けられず、それを不服としている人が多いと思います。(ゴミの収集、教育、災害時など)裏を返せば、そこに取り組んでいる市町村は、二地域居住者にとって真剣に考えてくれるすばらしい地域ということになります。また二地域居住者は今までの別荘持ちの感覚とは違い、地域にはいって活動することが目的になっている人が多くいて、地域に深く入っていくため、移住・定住へのつながりとしても、よりハードルの低い関係性が作られていくと思います。</p>	<p>本項目では、主に移住・定住への取組について記載をしているため、「少子高齢化社会に対応する移住・定住の促進」としてはいますが、本市といたしましても関係人口の重要性は認識しており、基本計画のP132、P135で関係人口の拡大についての取組を記載しています。御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。</p>
13	<p>【基本計画】 31ページ～ 第1節 豊かな自然環境の保全・生活環境の充実</p> <p>37ページ～ 第3節 安全安心な住環境と都市機能の整備の推進</p> <p>74ページ～ 第3節 魅力的な農林畜産業の振興</p> <p>79ページ～ 第4節 地域資源を活かした観光事業の振興</p>	<p>自然環境の保全について、計画では持続可能な環境保全を重視されていると思いました。そこで、海や川が重要な資源である石巻市にとって、山の資源への着目と注力は非常に大切な課題だと考えます。トレイルの運用をしていると、あるくスピードでモノを見るため、森林資源の荒廃やゴミの散乱は、とても残念な印象を受けます。山資源の整備は、防災の観点からも重要で都市生活とも密接に関わっていると思います。</p> <p>基本目標の連携をSDGsによる持続可能なまちづくりの視点で捉えていることはとても好感をもっており、自然環境の保全×林業振興×観光振興など連携できるとすばらしいと思っています。また、再生可能エネルギーの振興についても基本はいいと思いますが、設備や設置される場所などに関してもちゃんとSDGs視点で持続可能であるかなど、そこも含めた検討がちゃんとされることを望んでいます。</p>	<p>御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきますとともに、SDGsによる持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。</p>

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
14	<p>【基本構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9ページの本文6行目の「北上川」について</li> <li>・ 9ページの本文7行目の「母なる大河『北上川』」について</li> <li>・ 9ページの本文15・16行目の「北上川」及び28行目の「北上川流域」について</li> <li>・ 9ページの本文30行目の「北上川流域」について</li> <li>・ 22ページの「3生活基盤(1)自然環境」の本文3行目の「北上川流域の肥よくな平地」について</li> <li>・ 22ページの上本文5行目の「北上川」について</li> <li>・ 22ページの上本文6行目の「北上川の河辺植生」について</li> <li>・ 29ページの「(6)観光」の本文1行目の「北上川の恵み」について</li> <li>・ 43ページの「1将来像」の本文1行目の「北上川の河口」について</li> <li>・ 43ページの「～将来像への想い～」の本文8行目の「母なる大河『北上川』」について</li> <li>・ 47ページの「5土地利用の現状と課題(1)資源」の本文1行目の「北上川」「旧北上川」について</li> <li>・ 47ページの「同(2)市街地」の本文1行目の「旧北上川」について</li> </ul>	<p>報道によりますと、市では「北上川」に関する地域呼称と正式名称とを使い分け、公文書(総合計画含む)には正式名称を使うとのことですので、その観点から精査を試みたものです。</p> <p>北上川(新旧北上川)の歴史や現状等に疎い素人の考えですので、専門的な見地からご判断願います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追波湾に注ぐ「北上川」を指しているのが正式名称のとおりです。</li> <li>・ 文脈上、現在の「旧北上川」を意味すると思われませんが、改修工事以前の「北上川」を指するのであればこの表現でいいのかもしれない。</li> <li>・ 文脈から、1911年以降の改修工事以前の「北上川」を指すと解釈できますので、原案の「北上川」が妥当と思われま。</li> <li>・ 1950年当時の「北上川」は現在の「旧北上川」を指しますので、この流域が特別地域に指定されたのであれば、原案の表現が妥当と思われま。</li> <li>・ 「肥よくな平地」は「北上川流域」だけでなく「旧北上川流域」にも広がっています。面積的にはむしろ後者の方が広いのではないのでしょうか。後者を強調するのであれば「旧北上川流域」とするのが妥当と思われま。あるいは、「北上川流域」という熟語として用いる場合の「北上川」は「旧北上川」と「北上川」の両方を含むという共通認識があるのでしょうか。そうであれば、その旨注記等が必要と思われま。</li> <li>・ ヨシ原に言及されていますので正式名称のとおりです。</li> <li>・ 「河辺植生」は「旧北上川」にも当てはまるのではないのでしょうか。そうであれば、「新旧北上川」もしくは「旧北上川・北上川」とするのが妥当と思われま。</li> <li>・ 歴史的に見れば「旧北上川の恵み」の方が大きいと思われま。あるいは、改修工事以前の「北上川」もしくは新旧北上川(「北上川」と「旧北上川」)の総称としての「北上川」を指すのでしょうか。</li> <li>・ 文脈上、「旧北上川の河口」を想定しているのではないのでしょうか。</li> <li>・ 文脈上、現在の「旧北上川」を意味すると思われまが、改修工事以前の「北上川」を指するのであればこの表現でいいのかもしれない(9ページの本文7行目と同様)。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> </ul>	<p>基本的に河川法に基づく正式名称で記載しています。</p>
15	<p>【基本計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 39ページの11行目及び44ページの「8河川・港湾の整備を推進する」の本文1行目の「北上川下流域」について</li> <li>・ 74ページの本文1行目の「北上川沿いに沖積平野が広がり」について</li> <li>・ 155ページの本文3行目の「北上川流域」について</li> <li>・ 156ページの本文1行目の「旧北上川」について</li> <li>・ 158ページの本文2行目の「北上川」「旧北上川」について</li> <li>・ 163ページの「現況」の本文4行目の「旧北上川」について</li> <li>・ 165ページの「現況」の本文6行目及び「主要課題」の本文14行目の「北上川」「旧北上川」について</li> <li>・ 167ページの「現況」の本文1・5・14・16行目の「北上川」について</li> <li>・ 168ページの「施策展開の方向」の本文15行目の「北上川」について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文脈上、追波湾に注ぐ「北上川」の下流域とは考えられず、ここは「旧北上川下流域」が妥当と思われま。あるいは、「北上川下流域」という熟語として用いる場合の「北上川」は「旧北上川」を意味するという共通認識があるのでしょうか。もしそうだとしたら紛らわしくなりますが。</li> <li>・ 地質学上のことは詳しく分かりませんが、沖積平野が広がっているのはむしろ「旧北上川沿い」の方ではないのでしょうか。「北上川沿い」にも広がっており、両方を総称して「北上川沿い」とするのであれば、その旨注記等が必要と思われま。</li> <li>・ 文脈上、追波湾に注ぐ「北上川」だけでなく、石巻湾に注ぐ「旧北上川」も含むのではないのでしょうか。そのため、ここは「新旧北上川流域」もしくは「旧北上川・北上川流域」などの表現が妥当と思われま。あるいは、「北上川流域」という熟語として用いる場合の「北上川」は「旧北上川」と「北上川」の両方を含むという共通認識があるのでしょうか。そうであれば、その旨注記等が必要と思われま。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> <li>・ 正式名称のとおりです。</li> </ul> <p>総じて、例えば、次のような場合は正式名称や地域呼称に関わらず「北上川」と表すことができるという統一見解があれば、整理しやすいと思われま。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1911年以降の改修工事以前の「北上川」を指す場合</li> <li>(2) 現在の「北上川」と「旧北上川」を総称する場合</li> </ol> <p>地域呼称や正式名称を含め、どの「北上川」を指すかはそれぞれの文脈で判断できるものと思われま。</p> <p>なお、総合計画への記載はありませんが、機関名などの固有名詞や学校の校歌などに登場する「北上川」は、当時の名称に基づいて命名・表現されたものと推測いたします。</p>	<p>基本的に河川法に基づく正式名称で記載しています。</p>

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
16	<p>【基本構想】 【基本計画】</p> <p>○ 将来像と基本目標の表現について</p>	<p>表現を彩ることで市民の関心を惹こうということだと想像しますが、抽象的な表現にすることで真意がわかりにくくなっていないでしょうか。「ひとりひとりが多彩に煌めき共に歩むまち」も「ひとりひとりが活躍し、市民協働で進む多様なまち」等、具体的に表現した方が伝わるのではないかと感じます。</p> <p>基本目標も、表現から読み取れる内容が基本施策との整合性が薄く、違和感を感じます。</p> <p>例えば基本目標6「市民の声が共鳴し市民と行政が共に創るまち」が行財政施策にかかっていますが、これは市の施策すべてに共通する内容で、むしろ将来像のような大項目にあった方がいい内容に感じました。市民協働は行財政を改善するために必要だと言っているという誤解を生むのではないかと危惧します。</p> <p>また、将来像で多様性をもとめ、施策内容が多様性を受け容れられていない点については、行政職員、市民が共に対話を続けて学び続けていく必要性を強く感じました。</p>	<p>本市は、震災以前から住んでいる人、震災後に移住した人や震災を契機に来訪して下さる人など、他のまちと比べても多種多様な人々がまちに関わっています。さらに、川、海、山の豊かな自然や豊かな産業、各地域で継承されてきた伝統文化など、豊かな資源もあります。多種多様な人々や豊かな資源を”多彩”と表現しました。また、各自の持っている力や個性を発揮し、個々の輝きが相まってさらに輝くという意味を込めて、“煌めく”と表現しました。</p> <p>6つの基本目標については、それぞれが独立した目標ではなく、連携が必要であると考えております。基本目標6につきましては、第1節を「市民に寄り添い信頼される行政運営の推進」とし、市民ニーズの把握や情報発信、市民サービスの向上等、行政から市民に向けた取組を示しております。それに対し、第2節では「持続可能な行財政運営の推進」とし、職員の育成や行政運営、財源の確保や活用等、行政内部での取組を示しております。</p>
17	<p>【基本計画】</p> <p>○ 基本計画の構成について</p>	<p>基本計画の構成が、現状と課題、施策の体系、数値目標、KPI、市民ができること、施策の展開となっておりますが、数値目標、KPI、施策の繋がりが薄いと感じました。現代の社会はVUCAワールドと呼ばれ、不安定で変化が激しく、不確実で、複雑で、曖昧な時代とされ、常々変化する情勢に対応することが求められています。そのため、基本計画に基づく実施計画において、KPIは常日頃見直していく進め方が大切であるため、5年スパンでの基本計画に記載することは、かえってこのKPIに縛られ、成果を出しづらい結果を導くものと思います。KPIは実施計画毎に定め、基本計画への記載は再考いただきたいです。</p> <p>また、第1次石巻市総合計画のように、数値目標は現状、5年後、10年後を根拠をもって明示する必要があると感じます。</p> <p>KPIについても、ローリング方式で毎年見直しをかける項目かと思えます。5年間固定ではなく、柔軟に変更可能な旨、明記できないでしょうか。</p>	<p>本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。</p> <p>数値目標(KGI)や重要業績評価指標(KPI)については、全庁体制で検討しています。</p> <p>数値目標(KGI)は、今回策定する前期基本計画の終了時期である5年後の目標値を記載し、後期基本計画の策定時における中間見直し後にさらに5年後の目標値を記載します。</p> <p>重要業績評価指標(KPI)は、5年後の目標を定めませんが、社会情勢の変化に伴い柔軟に対応してまいります。</p> <p>実施計画では、活動指標及び成果指標を定め、ローリング方式で毎年度3年分ずつ見直しを行います。</p>
18	<p>【基本計画】</p> <p>○ 第1節 共生型社会に向けた地域コミュニティ活動活性化の充実</p>	<p>姉妹都市・友好都市協定と関係人口の繋がりが無理やりに感じます。姉妹都市・友好都市協定は、文化交流を行なうことで、多文化共生や多様性を育むことにより、市の独自性等が向上するものであって、関係人口は少子高齢化や人口減少社会を補完する地域の担い手としての提唱であり、この二つを繋げるのは適当ではないと感じます。関係人口は仙台市など近い都市や首都圏をターゲットにした方が明らかに結果に結びつくと思うと同時に、萩市やイタリヤといった遠方や、人口集中していない地方をターゲットにしても関係人口は増えないと思います。</p> <p>地域の均衡ある発展を図る施策として、離島振興を強化する実施計画を策定し、その実施計画のKPIとして離島交流人口の人数を設定するなら理解できますが、水上と水下が逆転していないでしょうか。</p>	<p>姉妹都市・友好都市との交流を推進することにより、対象都市からの直接的な関係人口の増加及び文化交流などにより地域の活性化につながることから、目標指標として定めています。</p>
19	<p>【基本計画】</p> <p>○ 第1節 豊かな自然環境の保全・生活環境の充実</p>	<p>清掃奉仕活動実施件数が増えればCO2削減量が増えるわけでないと思い、数値目標とKPIや施策とのつながりがないように感じます。数値目標は1つに絞ると矛盾が生まれてしまうため、必要に応じて増やしてもよいのではないのでしょうか。(市民の環境への意識の向上等)もしくは、掲載する節が適当ではないのかもしれないと思いました。(清掃活動は第2節ゴミ関係にまとめた方が適当では?)</p>	<p>基本計画の数値目標は節に対する目標として1つのみ設定しています。第1節については、主に自然環境・衛生環境を含む生活環境の保全を表現しており、第2節ではごみの減量化を表現しています。</p>
20	<p>【基本計画】</p> <p>○ 第1節 安心して妊娠・出産・子育てができる環境の充実</p>	<p>数値目標が出生率となっていることに危機感を感じます。この節はこどもに関わることで、石巻の将来にとっても重要で大切な項目であると感じますが、すべて出生率を向上させるために実施するのでしょうか。子どもを産む大変な役目を担っていただける女性や、子どもに主眼を置いた内容にしてもらいたいです。子どもを主語とした、子どもの権利を尊重して守る項目はつくれないのでしょうか。</p>	<p>当節は、安心して妊娠・出産・子育てができる環境の構築を目的としており、そうした環境を構築出来たか確認する指標の一つとして出生率を数値目標として設定しています。</p> <p>女性や子どもに主眼を置き、妊娠・出産・子育ての各ステージにおいて切れ目のない支援や子どもが安心して過ごせる環境の整備を図ってまいります。</p>
21	<p>【基本計画】</p> <p>○ 全体を通して</p>	<p>数値目標やKPIに強い違和感を感じます。だれがどのように決めているのでしょうか。数値目標を市民ワークショップなどを開いて再度意見を聞くなど、再考できないのでしょうか。</p> <p>事業の評価・検証が全体的にクオリティが低く感じます。形の見づらいものに人と予算を投入するのは根拠の設定が難しいことと思いますが、事業を評価する一連の手続きにもっと人と予算を投入することで、全体として、費用体効果や、事業成果に結びつくのではないかと感じました。</p>	<p>本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。</p> <p>数値目標(KGI)や重要業績評価指標(KPI)については、全庁体制で検討しています。</p> <p>数値目標(KGI)は、今回策定する前期基本計画の終了時期である5年後の目標値を記載し、後期基本計画の策定時における中間見直し後にさらに5年後の目標値を記載します。</p> <p>重要業績評価指標(KPI)は、5年後の目標を定めませんが、御意見のとおり社会の変化が激しい時代であることから、社会情勢の変化に伴い柔軟に対応してまいります。</p> <p>実施計画では、活動指標及び成果指標を定め、ローリング方式で毎年度3年分ずつ見直しを行います。</p>

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
22	【基本構想】 【基本計画】 将来像 ひとりひとりが多彩に煌めき 共に歩むまち	社会環境が目まぐるしく変わり、未来が読みにくい中で、計画と違った方向性で妥当性を欠く事業が進められたり、ごく一部の業者と開かれた議論もなしに貴重な公的資金が投入されたりしては、どのような計画も意味がない。 市役所職員自身が煌めいていなければ、市民が煌めく訳がないことに留意し、市職員が心から賛同し、具現化に努めたい。 ようなフレーズに修正をいただきたい。	本市は、震災以前から住んでいる人、震災後に移住した人や震災を契機に来訪して下さる人など、他のまちと比べても多種多様な人々がまちに関わっています。さらに、川、海、山の豊かな自然や豊かな産業、各地域で継承されてきた伝統文化など、豊かな資源もあります。多種多様な人々や豊かな資源を”多彩”と表現しました。また、各自の持っている力や個性を発揮し、個々の輝きが相まってさらに輝くという意味を込めて、”煌めく”と表現しました。
23	【基本構想】 p.18 人口の変化(総合計画の前提)	令和2年国勢調査の結果が出ているため、追加で反映すべきでは。 石巻市の人口は140,237。  5年前の社人研推計が140,825だったので、推計よりも減少が加速している事実と、更に、今年度初めに人口が大きく減少した事実を深刻に受け止め、計画に反映する必要がある。 今後10年の総合計画なので、過去の数字だけでなく、今後10年、20年の人口推計と共に記載するのは、当たり前ではないか。都合の悪そうな数字を文書から削除したからといって、人口減少がとまるわけではないので、次の世代によりよい石巻残すため、人口推計だけでなく、総合計画全編にわたって、しっかりと事実を見据え、それに真摯に対応する姿勢を示す必要がある。	人口フレームについては、社人研の推計を基に様々な取組を行うことによって人口減少の幅を抑制した目標値を記載しています。
24	【基本構想】 P.51 まちづくりの基本目標 以下、第2章全体  【基本計画】 P.10 施策体系 以下、第2編全体	「〇〇なまち」は、いずれも人口減少高齢化の厳しい現実を直視したものとは思えず、生活感との乖離が甚だしいと感じる。 コロナ禍により更に苦しい環境に追い込まれる市民も多い中、抽象的な美辞麗句で飾ることはせず、未来の石巻のために、具体的な手段や目標設定を備えた形で根本的に見直しいただきたい。	第2次石巻市総合計画では、社会情勢の変化やアンケート調査、現行計画の評価・検証等を通して主要課題を抽出し、6つの基本目標及び施策体系を設定しました。今後も社会情勢に対応した各施策に取り組んでまいります。
25	【基本構想】 【基本計画】 数値指標の全面見直し	基本構想、SDGs、数値目標、KPIとの整合性が見いだせない点は、石巻市民の今後10年間の生活を大きく左右する総合計画として致命的であり、数値目標やKPIは、客観的な必要性が認められれば「いつでも、柔軟に」組み替え可能であることを明記することが、次の世代に負債を押しつけないために不可欠な手法と考えられる。今後も、数値目標やKPIを継続的に議論するための対話の場を設定することを総合計画に盛り込み、実践してほしい。 総合計画とSDGsの関連を掲げるなら、本計画の指標と、SDGsの指標と関連性を持たせるべき。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 数値目標(KGI)や重要業績評価指標(KPI)については、全庁体制で検討しています。 数値目標(KGI)の評価検証については、外部委員等による評価検証を行い、修正等の必要がある場合は対応する予定です。
26	【基本計画】 P.8 計画の推進	今のままのKPIでは市政の方向がずれてしまうので、PDCAの原則に従い、今年度4月からの「DO」に対する、数値目標の妥当性の「CHECK」と「ACTION」が必要。そのため、4行の説明文を以下に変更し、図もそれに合わせて修正すべき。 「総合計画の推進管理のために外部委員等による評価・推進会議を設け、計画(Plan)、実行(Do)、評価・検証(Check)、改善(Action)によるPDCAサイクルを確立し、計画を推進します。 第1回目の評価・推進会議において本計画の数値目標の妥当性を見直して改善するところからPDCAサイクルを開始し、急速に変化する社会情勢に合わせて、柔軟に計画を修正しながら推進します。」  以下、第1回目に個別の数値目標の妥当性に「CHECK」と「ACTION」が必要な旨の説明。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御意見については、参考にさせていただきます。

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
27	【基本計画】 個別の数値目標について P.13 共生型社会	「地域の自治会活動に参加している市民の割合」がKGIになっているが、他市町や首都圏の助成組織からもNPOの活発な市と認識されており本市の長所であるため、NPO活動を指標に加えた方が良い。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。
28	【基本計画】 個別の数値目標について P.16 移住・定住	もういい加減に、「移住数」だけをKPIにすることはやめるべき。 震災後には移住した方がたくさんいたのに、多くが去ってしまったことはまぎれもない事実であり、「撤退者数」もKPIに含めるべきではないか。また、年度ごとの移住数ではなく「移住者数全体の推移」と「市全体の転出数」をKPIとすべきことは自明と思える。 また、計画や方針にどのように記載されようが、「石巻でやる」などとヨソモノを排斥する動きが顕著に存在していることが、市外からの来訪者や移住者を遠ざけていることはまぎれもない現実であるため、身近なところから改善すべきではないだろうか。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。
29	【基本計画】 個別の数値目標について P.27-29 未来につなぐ震災伝承	他のセクションで下位計画（「男女共同参画基本計画」、「地域公共交通網形成計画」、「石巻市第3次障害者計画」など）を引用しているのと同様、「石巻市震災伝承計画」の存在を明記し、伝承計画に則って推進することを明記すべき。 数値目標として、震災遺構の来訪者数だけが記載されているが祈念公園や他の伝承施設を排除する理由が見当たらない。また、訪問やサイトアクセスしたからといって伝承が実現するわけではないため、「伝承施設訪問を通じた意識変化、行動変化」を指標とすべきでは。 また、伝承計画で中間支援組織の設立を掲げているため、KPIにその設立と参画組織数を追加しない理由を見出すことが出来ない。更に、過去の被災地では、伝承や防災、被災地でのボランティア等を促す補助金が制度化されているため、「情報発信件数」だけでは明らかに不十分であり、「震災伝承活動への助成件数」「市民主体の防災活動件数」をKPIに加え、市民が自ら震災伝承に取り組めるような制度を整えることが、総合計画として望ましい。 また、「市民ができること」支援に対する感謝を強要するかのよう記載する前に、行政として感謝を表す機会を設けることが必要では。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。 「市民ができること」の項目については、行政と市民が協働でまちづくりをしていくため、行政が取り組む各施策に加えて、「市民がまちづくりに関してできること」を記載しております。こちらの内容については、各ワークショップで議論していただき、いただいた御意見を基に記載しております。
30	【基本計画】 個別の数値目標について P.80,81 観光事業	観光客入込数を指標としているが、各施設や行事の計測手法がバラバラで、きちんと図れるようにすべき。また、リピート率、消費額、満足度、広報効果など様々な指標があるが、観光のような外に開いた取り組みを担う事業体は積極的な情報公開を義務付け、費用と成果を明示できるようにすべき。 「震災遺構で観光誘客」に違和感を持つ遺族に配慮し、適切な表現と事業の推進を。 定款も役員構成も決算書も公開しないごく一部の団体にだけ市の事業を委託している、質の向上も望みにくいし、観光業への若い世代の参入を阻害している。	御意見につきましては、担当課と共有し、具体的な取組を推進・検討する際の参考とさせていただきます。
31	【基本計画】 個別の数値目標について P.96,97 いのちを守る防災教育	KPIが副読本の活用率になっているが、まず「震災遺構などの伝承施設への生徒訪問数」とし、訪問と防災教育がイコールではないことは明らかのため、「伝承施設訪問を通じた意識変化、行動変化」を指標とすべきでは。 「市民が出来ること」も、家庭内の防災も重要だが、震災遺構や祈念公園、伝承施設、石碑などを訪問し、学校や地域の避難訓練に積極的に参加するなど、まだまだあるのでは…。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。 「市民ができること」の項目については、行政と市民が協働でまちづくりをしていくため、行政が取り組む各施策に加えて、「市民がまちづくりに関してできること」を記載しております。こちらの内容については、各ワークショップで議論していただき、いただいた御意見を基に記載しております。

総合計画パブリックコメントの実施結果について

No.	項目	意見	石巻市の考え方
32	【基本計画】 個別の数値目標について P.109-111 市民に寄り添い信頼	地域協働課による「市民公益活動団体との協働推進に関する基本方針」や「協働の原則」を踏まえた内容にしていただきたい。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。
33	【基本計画】 個別の数値目標について P.109-111 市民に寄り添い信頼	SDGsの指標17.17.1は以下の通り。 (a)官民パートナーシップにコミットしたUSドルの総額 (b)市民社会パートナーシップにコミットしたUSドルの総額 この施策に関しては、「官民協働事業の予算額」を指標に導入することがベスト。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。
34	【基本計画】 個別の数値目標について P.122 被災者の心の復興	最大被災地だからこそ、「心の復興」という上から目線で、実現手法や到達地点が共有されていない呼称は、さけるべき。 KPIの「心の復興の満足度」を聞かれても回答のしようがない。 ソフト事業として長く続いている復興応援隊事業は「地域の変化」や「継続性の獲得」を目標としていたため、地域の方々や私たち自身により「生み出した変化」を指標とするのがベターでは。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。
35	【基本計画】 個別の数値目標について P.135 関係人口	震災遺構来訪者数は関係人口の指標の一つに過ぎない。 復興祈念公園の来園者数も含めるべきだし、「人数」だけでなく、防災意識の変化やレポート率など、本質的な「関係性」を指標とすべき。 また、「ボランティアで関わっていただいた方」を対象にした調査も御礼も感謝の機会もこの10年間全く設けないまま、「関係人口」に使わないでいただきたい。(熊本地震の被災2自治体からは感謝状をいただいたが、石巻市からは受領していない) あの時のボランティアを関係人口として言及するならば、過去の記録に基づき、きちんと調査すべき。	本計画の策定にあたり、構成や内容について、全庁的な会議や有識者で構成される審議会等で検討を重ねてまいりました。 御提案いただきました指標については、参考にさせていただきます。